

Editorial

今月号の特集について

西塚 至

東京都保健医療局

●●●「三文にて歯二つ」轍を踏むな

「三文にて歯二つ」は鎌倉時代中期の仏教説話集『沙石集』の一節。奈良の男が虫歯を抜くために歯医者を訪れ、一本二文のところ交渉の末、三文で二本の歯を抜かれ、虫歯とともに健康な歯も失う話です。欲深さが自分に不利益をもたらす教訓を伝えています。

2025年、わが国は現役世代の人口の急減という新たな局面を迎え、社会保障制度の持続性確保が課題となり、給付と負担の見直しに関する国民的議論が行われています。

口腔の健康は全身の健康と密接に関連しており、口腔保健を改善することで心血管疾患や糖尿病などの疾患を予防管理でき、健康寿命の延伸、医療費の削減につながります。厳しい社会環境の中でも、歯科口腔保健施策を緩めずに、効率的・効果的に推進しなければなりません。

今月号の特集は「新時代の歯科口腔保健——ライフコースアプローチを踏まえた健“口”施策」として、高齢者数がピークを迎える2040年を展望した歯科口腔保健推進のグランドデザインについて、各分野の専門家から解説をいただきました。

●●●読みどころ

尾崎哲則先生には Society 5.0 を実装した歯科保健指導を担う人材の育成についてデジタルトランスフォーメーションの実践例を交え執筆いただきました。小坂健先生には JAGES、Hisayama Study、LIFE Study など大規模コホートから歯周病と全身疾患との関連、口腔機能低下と全身の関連について考察していただきました。岸光男先生には東日本大地震被災者の口腔関連 QOL に関するコホート調査の結果を解説していただきました。激甚・頻発化する災害で避難者を支える側の読者各位にとって必読の論文です。

その他、福田英輝先生には2024年から新たに展開する歯・口腔の健康づくりプランの5つの基本方針と17の指標、新たに示された参考指標について、田村光平先生には健康寿命の延伸及び健康格差縮小、災害時の歯科保健医療活動などを盛り込んだ新たな歯科保健推進計画を、平野浩彦先生には認知症歯科医療体制に関する調査結果とそれを踏まえた地域連携構築の在り方を、三浦宏子先生はフレイル予防に向けた地域歯科保健活動をそれぞれご紹介いただきました。

●●●沙石集と公衆衛生

『沙石集』の書名は、「沙（砂）から金を、石から玉を引き出す」が由来で、世の中にあふれるいろいろな事柄から仏教の教えを説くという意味があるそうです。一人一人の生活に寄り添い、疾病などの危険から人々を守る公衆衛生の理念とも共通するのかもしれません。